江戸川総合人生大学発 ―― 人と地域をつなぐ情報紙

ひとあいえどがわ

No.37
発行日 / 2018.3.1
創刊日 / 2007.4.10
EDOGAWA SINCE 2004 SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU
http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

小松川境川親水公園にて【写真：まち13期 古澤慶充】

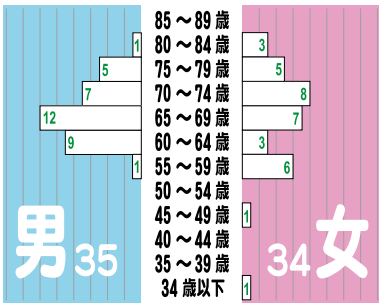
平成29年10月、人生大学に新たな69の希望のつぼみが開きました。

昨年10月、32歳から83歳までの幅広い年齢層の第14期生、69名が、期待と希望に胸を膨らませて入学しました。

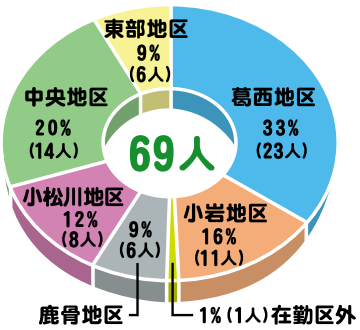
家庭や職場、社会で重要な役割を担い、それぞれの分野で豊富な知識と経験を持つ人材が集結し、まさに多士済々。

2年後には、873名の卒業生と66名の在校生（13期生）に続き、地域で活躍の花を咲かせることでしょう。

14期生の年齢構成（男女別）



14期生の居住地区



人生大学 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

14 期生の声

ともに学ぶ仲間に出会いました。

それぞれの思いを胸に平成29年10月に入学した14期生の大学生活も5カ月が経過。入学時には不安を抱いていたことも忘れ、いまでは新たな人生の目標の達成に向かって心をひとつにする仲間と出会ったことに喜びを感じる毎日を送っています。今回は、入学を決意した動機や入学後のクラス・授業の感想、今後の抱負など、14期生の声を聴きました。

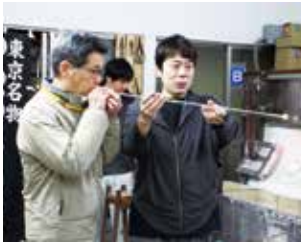
江戸川まちづくり学科

江戸川区に住んでまだ3年。知人は職場の同僚と、同じマンションで挨拶を交わす人だけ。日常の行動範囲は半径2km。このままではいけないと思い志望し、入学したら一度に14名の仲間ができました。

授業では気付きと刺激が、江戸川区については驚きと関心が増加する毎日。地域と関わることで、今まで知らずにいた新鮮な魅力を体感。ここで得た宝を多くの方に伝えるお手伝いができたらと思います。（畠山優子）

退職後、新たな歩みを身近な地域で探したいと思い入学を決意。人生大学はその目的に適うものでした。先生方や諸先輩からは多くの実学や気付きを教わり、また、企業とは異なる視点や世界観もあって、日々新鮮な発見の連続です。

地域の枠組みを徐々に理解し、そして何よりも気さくな仲間と出会えたことで、自分たちが主体となって新しいわくわくする活動ができそうな気がします。（佐々木統一）



国際コミュニティ学科

昨年9月に37年間勤めた会社を定年退職。退職を前に定年後の自分はどうあるべきかを考えた時、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時を目標に、海外からの来日客に安心と喜びを与えられる活動をしたいと強く思いました。とはいえ、私は外国語が全くの苦手。外国の人と本当に接することができるのだろうかと不安もありました。一念発起して通った英会話学校も諸事情で休学。以降、夢の実現のために、語学以外でも将来役立てることができる何かを身につけたいという思いは増すばかりでした。そんな時に目にしたのが、「広報えどがわ」に掲載された人生大学の募集記事。「これだ」と思い、即座に願書を出しました。

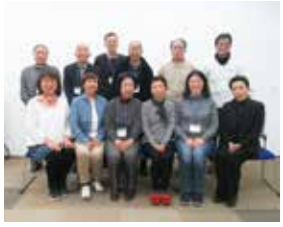
いまは、わがまち江戸川区を深く知り、その良さを地域の皆さんに伝えるようになることが重要だと考えています。そしてその先に夢の実現を見据えながら、ここで出会うことが出来たすてきな仲間と楽しい学校生活を送っています。（高梨保之）

子ども・子育て応援学科

級友12名に取材をしました。まずは志望動機。「初孫の誕生を機に、娘の子育ての参考になればと。」「思い返すと子どもとのかかわりが少なかったと反省して。」「次世代を担う子どもたちを育ててくださる先生方の力になりたい。」「入学前、北野学長や講師陣の講義を聴講し感銘を受けて。」「退職を機に、地域のボランティア活動に参加したい。」「節目となる年を迎え、新たな挑戦をしたい。」「日々を漫然と過ごすのは惜しく、地域の役に立ちたい。」など、それぞれの思いを抱いての入学です。

次に授業の感想。「毎回とても内容が新鮮で、分かりやすい。」「役に立つ新しい発見があり充実。」「子育ての時期に講義を聴きたかった。」など、日々の授業に前向きに取り組む姿勢がうかがえました。

今回の取材で、子ども14期は、2年間の学生生活で、「学んで得る智・人と交わって得る智・自らの体験によって得る智」（島崎藤村）を身につけ、持てる可能性を発揮し、地域に貢献できると確信しました。（小山義明）



介護・健康学科

応募の目的・動機は、自分の存在意義を高めたい、生き甲斐を探したいと漠然としたものです。

人生大学の存在は区の広報で、2・3年前からボンヤリと認識はしていました。だが特に何かを学びたいことよりも、学生時代に戻ってフランクな仲間同士の集い交わりを再現することに憧れを抱いていました。

どのように2年間学ぶのかということよりも、卒業してからどのような日常生活・後半の人生にするのかが重要であると考えます。退職して振り返ると、ほとんど地元の地域住民との接触がありませんでした。今後は何か江戸川区・地元でボランティア活動でもできないものか?それを人生大学で学べるのではないかと。

クラスの仲間と交流を深め、卒業までにはチームとして共通の認識を持てるようになりたいと考えています。（佐藤廣幸）

13 期生の声

役立つことの喜びに出会いました。

人生大学の2年次では、専門科目の履修のほか、学習成果を地域に活かすための実践能力の向上とボランティア団体の現場のニーズの把握を目的とした社会活動体験を行います。教室での耳で聞く“学び”ではわからない、行動して始めてわかる“学び”がそこにはあります。13期生からは、地域貢献をする喜びが伝わる活動体験記をお届けします。

江戸川まちづくり学科

体験先：「音訳ボランティア風の会」

地元の人と知り合う良い機会と考え入会しました。視覚障がいの方のために、「広報えどがわ」と「区議会だより」を音に翻訳し、CD化して伝えています。私は区長の声を担当。区政に、より関心を持つようになり、今ではすっかり地元の人間になれた気がします。

（松村勝之）

体験先：「人生大学まちづくり暮らしの会」

空き家を活用した、地域のコミュニケーションづくりの場所。アットホームで、皆さんいつでも笑顔で迎えてくれます。会話も絶えず、時間が経つのも忘れるくらい居心地の良い空間です。今は活動のひとつ「布ぞうりづくり」に取り組んでいます。　（大場千恵子）

国際コミュニティ学科

体験先：「日本語の会 いろは」

地域の外国人との交流を図る会で、まずは日本語学習を体験。教材は、教科書、英語・中国語併記の葛飾区の情報紙に加え、スーパーのチラシも使用。参加者は主婦の方が多く、私の経験が会話に活かせました。次は、日本文化を紹介する交流会に参加するのが楽しみです。　（監物（けんもつ）ときゑ）

体験先：「小岩日本語クラブ」

クラブのモットーは「みんなで楽しく学ぶ」。体験した学習会には、30名ほどの外国人が参加。熱心に、楽しそうに日本語会話を学んでいました。児童向けのクラスもあり、学校での楽しい体験を流暢な日本語で話してくれた小学生には、驚きに加え、頼もしささえ感じたほどです。（山口　登）

子ども・子育て応援学科

体験先：「一緒がいいね　ひなたぼっこ」

江戸川区初の「富山型デイサービス」を体験。隣の軒先がちょっと広がったような場所に、赤ちゃんも、高齢者も、障がいのある方も一緒になって過ごすひと時。スタッフさん、ボランティアさんもが混ざって、まるで大きな家族のよう。笑い声の中で、ゆるやかな時が流れていました。　（溝口智子）

体験先：「鹿本小学校　学校応援団」

同校で学習の支援をする団体の活動に参加。1年生から3年生までの算数の学習支援を体験。「考える子」を育てる教育目標に沿って、子どもたち一人ひとりの習得ペースにあわせて熱心に指導される先生のために、少しでもお役に立つことができればと思いました。　（志賀直照）

介護・福祉学科

体験先：「（合唱グループ）フリージア」

人生大学の卒業生が平成24年に設立。ピアノ伴奏で、365日の紙飛行機・待ちぼうけ・いい日旅立ちなど、誰もが知っている曲を介護施設や区の行事などで歌っています。

80歳の私にとって、歌は、健康や若さを保つ秘訣です。

（桜井重雄）

体験先：「江戸川みまもり隊」

活動の目的は、高齢者（主にひとり暮らしの方）などが、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりです。

新人の私たちの思いは「人のために何かお役に立ちたい」。訪問先で笑顔を見るたびに、安心と元気をいただき歩いています。　（松島珠美）

卒業生のボランティア活動紹介

江戸川総合人生大学 地域デザイン学部 「切り絵」教室

在学2年目の平成27年12月、11期生・12期生の5名で立ち上げました。教室は、月1回。第一月曜日、12時～14時。場所は、篠崎コミュニティホールです。活動テーマは、切り絵を通して緩やかな居場所をつくること。素人集団なので、みんなで教え合っています。

切り絵の題材探しには苦労します。昨年は季節感のある、ひな祭り・端午の節句・サンタクロースなどを使用しました。教室では切るだけでなく、でき上がった作品を自慢し合ったり、切った作品に折り紙で色付けをしたりもします。あっという間の2時間です。今年は、今までの成果を見てもらうために、教室の作品展示会を開催したいです。

新たな試みとして、昨年12月より、すくすくスクールで小学5年生を対象に「切り絵で似顔絵を作成する」活動を開始。今後も続けていきたいです。

切り絵は白黒の世界で幻想的です。一度皆さん遊びに来て体験してみてください。とにかく楽しいです。お待ちしています。

（使用教室は、部屋予約の都合上変更もあります）

連絡先：下村政克　090-1438-7924
shimo-masa@ozzio.jp

ブログ：https://ameblo.jp/e-kiriekyoshitu/

教室風景

完成作品

アクティブライフえどがわ

「アクティブライフえどがわ」は、国際コミュニティ学科の有志が平成23年に立ち上げた活動サークルで、会員は9名。熟年者が地域とかかわりあいながら、心身ともに健全で、実りある時を過ごすことを目標としています。

現在の活動の柱は、ノルディックウォーキングの開催と日本語学校での留学生の授業サポート。

ノルディックウォーキングは、まさに熟年者の生活習慣病の予防と健康増進を目的としたもので、月に1回のペースで、葛西臨海公園や東京近郊の公園等で実施。毎回10～20名の参加者を得ています。

留学生の授業サポートは、地域住民として、地域の外国人と良好な文化交流を図りたいとの思いから始めたもの。西葛西の日本語学校で、留学生の母国と日本の相互の文化が理解しあえるテーマで行う日本語フリートークが活動の中心。活動に賛同する人生大学の卒業生や在校生も多く参加しています。

近い将来、交流した外国人留学生が、再び江戸川区に戻り、地域の人々との国際交流推進の一翼を担ってもらえる日が来ることを願っています。

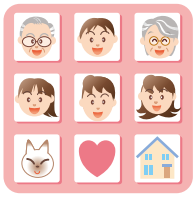
連絡先：大谷　力　090-7191-5312

ブログ：http://activelifeedogawa.blog.fc2.com/

ノルディックウォーキング

授業サポート風景

同窓会の窓



ＡＩ（人工知能）、ＩｏＴ（物や機械とのインターネット接続）、ビッグデータ・・・横文字やカタカナが並んでいますが、最近産業界で話題になることが多いSociety5.0とも呼ばれる第四次産業革命において中核となる技術とされています。いずれもインターネット等のネットワークを活用することによって十分な機能が発揮されるもので、現代はまさに「ネットワークの時代」といえるでしょう。

ネットワークが重要なのは、産業界だけではありません。

11期目を迎えた江戸川総合人生大学同窓会では、前期に引き続き様々な機関や団体とのネットワークづくり・絆づくりによる同窓会活動の活性化を目指して、新しいスタートを切っています。

同窓会会長　前田 直義（国際９期）

同窓会ホームページ　http://jinseidaidousou.web.fc2.com/

人大ボラ連メールアドレス　jindaiboraren@yahoo.co.jp

編集後記

『ひと あい えどがわ』も10周年。節目の年に編集長となりました。

右も左もわかりませんが、新たに迎えた14期生も含め、編集委員の皆さんに支えられながらより良いものができるよう取り組んでいきたいです。

今号では、人生大学に携わっている多くの方々の学習や社会活動の様子など、生き生きとした姿が伝わればと思います。

情報紙を通じて、少しでも人生大学に興味を持ってくだされば幸いです。

編 集 長　大場 千恵子（まち13期）

編集：「ひと　あい　えどがわ」編集委員

【13期生】 大場千恵子、柴田正美（まち） 大野正夫、黒田健司（国際）
志賀直照、松本政子（子ども） 櫻井昇、松島珠美（介護）

【14期生】 多久島重、田村誠二郎（まち） 榎本清一、山本洋子（国際）
栗原國子、小山義明（子ども） 川崎富美雄、松瀬元春（介護）

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで　電話：03－3676－9075／FAX：03－3676－6545

発行日／2018年（平成30年）3月1日　発行／江戸川総合人生大学
〒133－0061 江戸川区篠崎町7－20－19 篠崎文化プラザ